

特定サービス産業動態統計調査の結果について

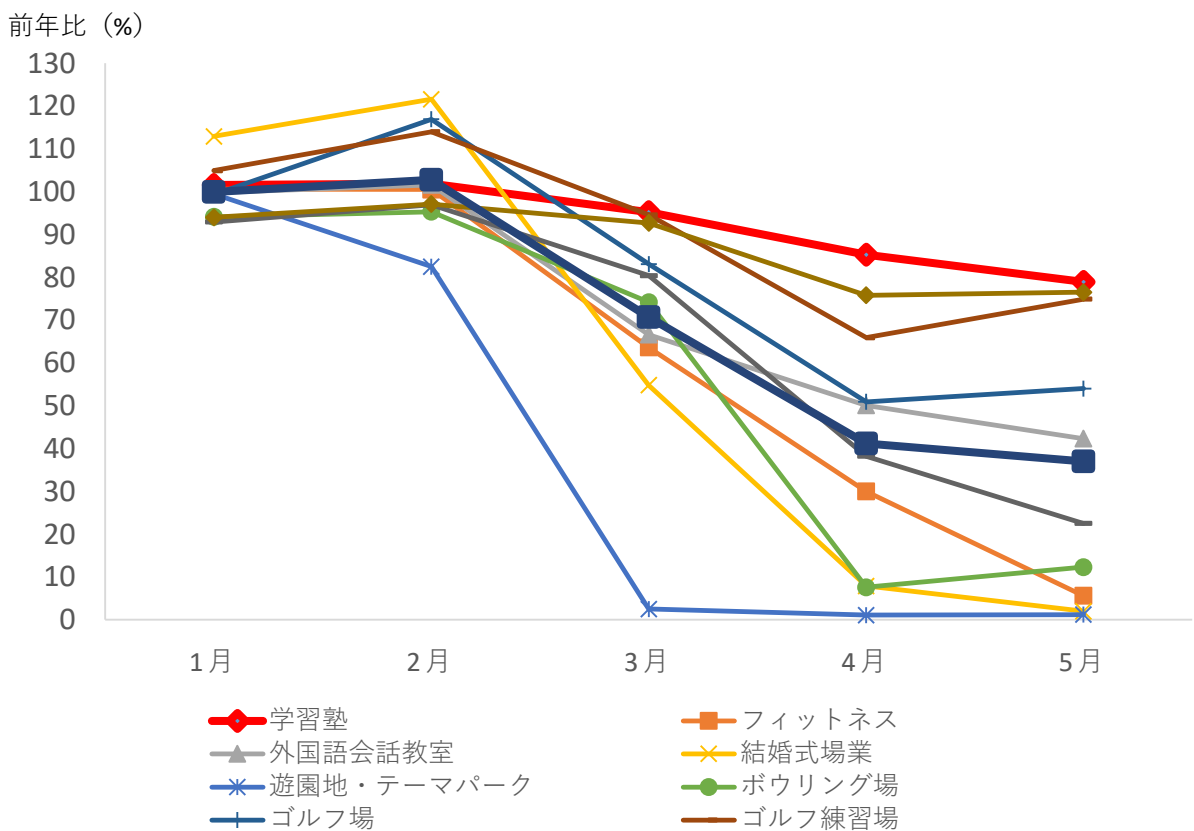
経済産業省が実施する特定サービス産業の統計調査を基に、新型コロナウイルス感染症が学習塾にどの程度の影響を及ぼしているかについてまとめました。

他業種との比較をはじめ、直近の売上高、受講生数、従業者数の近年の推移を見ることで業況を把握することを目的としています。

調査資料：特定サービス産業動態統計調査（経済産業省）

調査対象：経済センサス-活動調査等を母集団とし、年間売上高（全国計）のおおむね70%をカバーするまでの売上高上位の企業

1. 対個人サービス売上高前年比



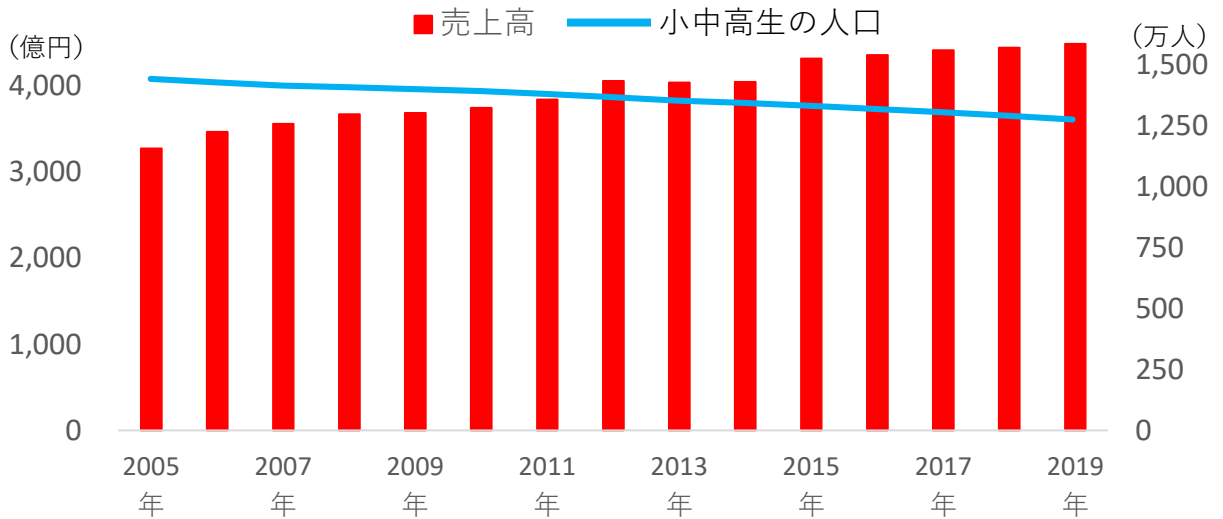
(%)

	学習塾	フィットネス	外国語会話教室	結婚式場業	遊園地・テーマパーク	ボウリング場	ゴルフ場	ゴルフ練習場	パチンコホール	葬儀場	平均
1月	101.6	100.6	99.8	112.9	99.5	94.1	99.3	104.9	92.9	94.0	99.9
2月	101.9	100.5	101.6	121.6	82.5	95.3	116.9	114.0	96.9	97.1	102.8
3月	95.2	63.6	66.6	54.8	2.5	74.2	83.1	94.6	80.4	92.7	70.7
4月	85.3	30.0	50.1	7.9	1.1	7.6	50.9	65.9	38.2	75.8	41.2
5月	78.9	5.6	42.3	2.0	1.2	12.3	54.0	74.9	22.5	76.5	37.0

☑2020年1月、2月の売上高は、概ね各業種ともに前年比100%前後で推移していたが、新型コロナウイルス感染症が拡大し始めた3月は平均で前年比70.7%となり、緊急事態宣言が発令された4月と5月については、4月は41.2%、5月は37.0%と大きく落ち込んだ。

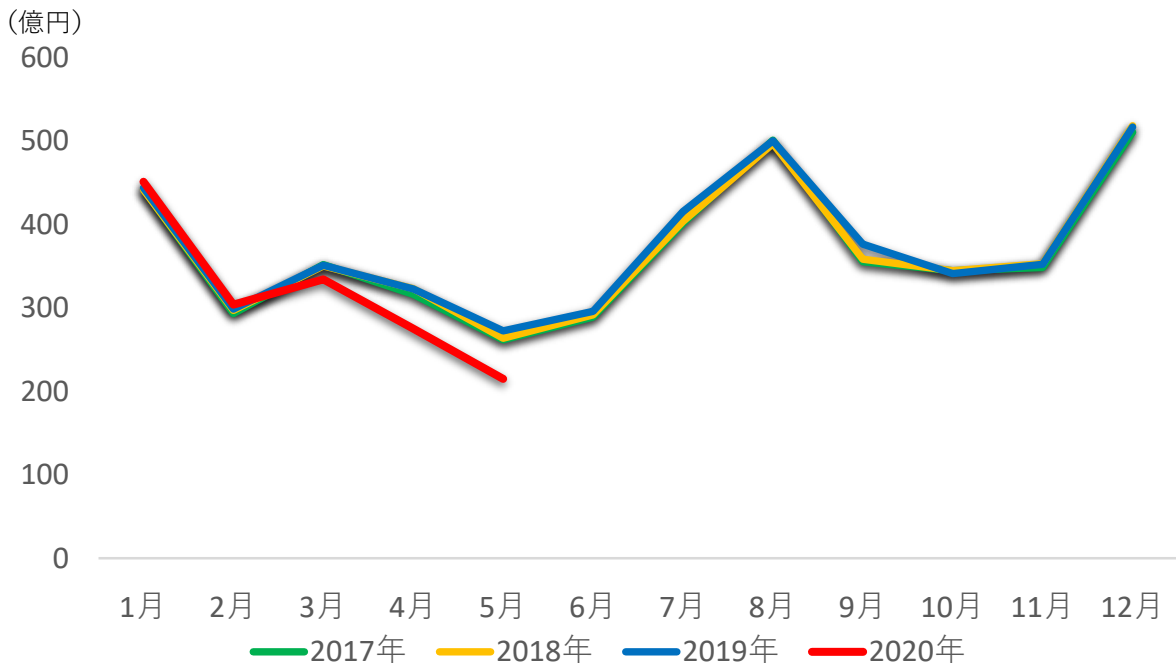
☑学習塾は3月から5月のすべての期間で、減少割合が最も小さかった。これは既存顧客に継続的にサービスを提供するというビジネスモデルであることに加え、多くの学習塾がサービスの提供方法を対面からオンラインへ即座に切り替えられたことが大きい。

2. 学習塾売上高と小中高生の人口推移



☑ 学習塾は少子化の影響を受ける業界と言われて久しいが、2005年から2019年までの間に小中高生の人口が約12%減少している（「学校基本調査」より）ことに反して、売上高は約37%増加している。これは、顧客獲得や顧客単価アップ等によるところが大きい。

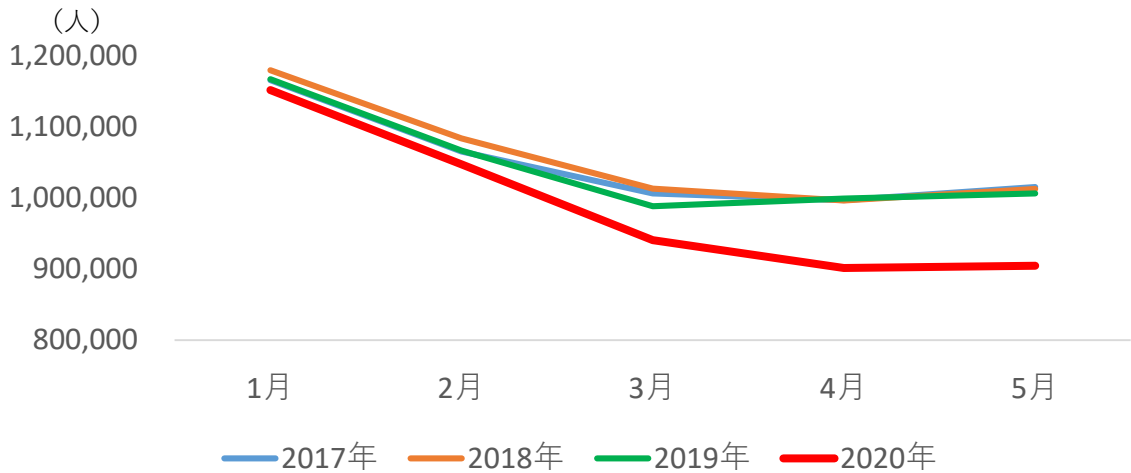
3. 近年の売上高



☑ 2020年3月から5月の売上高は感染症の影響等により減少しており、その下げ幅が徐々に大きくなっている（3月95.2%、4月85.3%、5月78.9%）。要因としては、春の募集期に新規顧客を獲得しづらかったことが大きい。

☑ 例年は、夏期講習により7月、8月の売上高の上昇が見込めるが、今年は感染症の影響に加え、夏休み期間の短縮により減少が予想される。

4.近年の受講生数

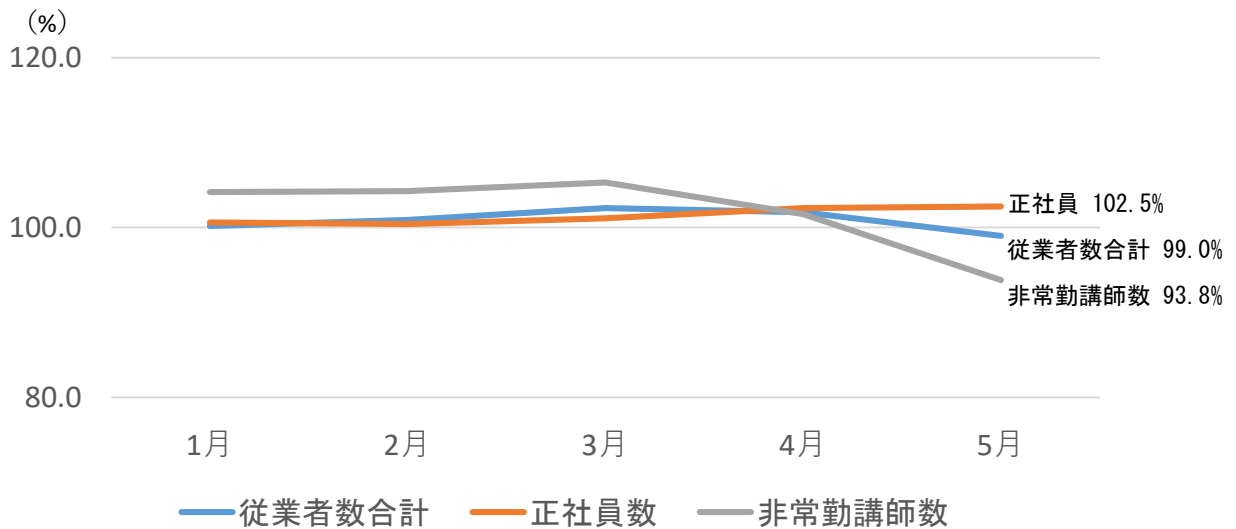


例年、年明けには、進路が決定して卒業により受講者数が減少するのが一般的である。ここ3年間はほぼ横ばいで推移していたが、2020年3月は前年比-4.9%、4月-9.8%、5月-10.1%と減少している。

表1（対個人サービス売上高前年比）より、売上高は4月-14.7%、5月-21.1%であるが、売上高ほど受講生数は減少していない。

今年5月の顧客単価は前年より12.2%（3,333円）低下している（2019年5月 27,114円、2020年5月 23,781円）。休塾等による返金や値下げ等によるものと考えられる。

5.従業員数等の前年比



5月時点の正社員数は前年比102.5%と雇用の維持に努めている。売上高及び受講生数の減少の影響もあり、非常勤講師数は93.8%と減少している。

【お問い合わせ先】
 公益社団法人全国学習塾協会
 〒170-0005東京都豊島区南大塚3-39-2
 TEL 03-6915-2293 MAIL info@jja.or.jp
 ホームページ <https://www.jja.or.jp>